

「母性と健康」母の日講演会 前編



5月9日の講演会には多数ご参加いただき、まことにありがとうございました。

白衣の太田東西、スーツの市原さん、そして法衣の福元さん。

「白衣+スーツ+法衣」の超・異色講演会は、そうそうないと思います（笑）。

後日、参加して下さった皆さんから

「笑いあり涙ありの講演会でとても良かったです」というお声をたくさん頂戴いたしました。

そして、何を一番お伝えしたかったのか、おわかりいただけましたよね？

当日、参加できなかった方々のためにも、ここで簡単に復習いたしましょう。

テーマは「母性と健康」。

「母性」とは何か？を考え、健康で幸せに生きていくためには、「母性」が必要不可欠という結論になりました。

その「母性」。

「母性の特徴は包むことであり、父性の特徴は切ることにある。母性はすべてのものを平等に一体として扱い、父性はそれを分離しようとする」といった専門的解説もありますが、講演会では母性を以下のように定義しました。

相手を認めること

相手を許すこと

仏心 = 母性

相手に認められる、相手に許してもらうことは、誰でも心地良いことです。

「こころ」が嬉しい！と感じれば、薬もよく効いて、「身体」の不調はどんどん改善していきます。

相手に自分が「認められる」「許される」のは嬉しいことですが、自分が相手を「認める」「許す」ことは難しいものです。

これができないから、多くの方は「イライラ」のストレスを抱え込み、頭痛・肩こり・腰痛・めまい・不眠など自律神経失調症に見舞われています。

例えば、子供が勉強せずにテレビばかり見ている。

そういう状況でも、子供を「認め、許す」のか？

浮気している夫を「認め、許す」のか？

意地悪された姑を「認め、許す」のか？

これを「仏教」の立場から、福元さんに答えていただきました。

福元さんは、「仏教でもすべてを許すわけではない」とおっしゃいました。

対処すべきことには、きちんと対処する。

ただ、対処の「仕方とタイミング」が大切で、そこに相手への「母性」があるかどうかの問題です、とお話されました。

子供がテレビ、ゲームばかりで勉強をしない。
注意はしなければいけないが、注意する「ものの言い方とタイミング」が肝心だということでした。

「いつまでテレビ見てるの！いい加減にしないで！何回言ったらわかるの！」
そう、親としては言いたくなりますが、テレビやゲームに夢中になっている子供に対して、頭ごなしに叱って、「そうだ、勉強するんだって。注意してくれてありがとう、お母さん」という子供はいないでしょう。

イソップ物語に「北風と太陽」の話があります。
コートを着た男に対して、どちらが早く男のコートを脱がせることができるか競争しました。北風は、男のコートを吹き飛ばしてやろう！と、ビュンビュン吹き荒れましたが、逆に男はコートが飛ばされないように、ギュッと強く握り締めました。一方、太陽は徐々に男を温めることで、男にコートを「脱ぎたい」という気持ちにさせて、自主的にコートを脱がせました。

「勉強しない子供」という現象だけを見てイライラするのではなく、「なぜ子供が勉強しないのか？やる気がないのか？」「やる気を出させるためには、親としてどう子供に接すればよいのか？」を考える。
相手の立場になって考える、それが「母性」ということでした。

夫の浮気は悪い。しかし「浮気した夫を絶対に許さない！」という奥さんが女性ホルモンバランスを乱して子宮筋腫や乳がんになったり...。
理不尽であっても、そんな奥さんの心身の健康のためには
「夫はなぜ浮気をしたのか？」という夫への「母性」が持てるか、です。

姑にイヤミを言われ、意地悪をされ、我慢忍従の30年だった...。
そんな姑を絶対に許したくない！というお嫁さんの心情は理解できます。
しかし、我慢の反動として生じた「怒り」を持ち続ければ、その「こころ」がお嫁さんの「身体」に病気となって表れたりします。
「姑はなぜ私に意地悪をしたのか？」という姑への「母性」が持てるか、です。

ポイントは、相手の「生い立ち」を考えることでした。
どれだけの母性を、実母から、家族から享受して生きてきたか？

母性を知らない夫は、妻に母性(母親代わり)を無意識に求める傾向があります。
母性を知らない姑は、息子夫婦の円満を素直に喜べない傾向があります。

おかあ～さん？ な～あに？



おかあさん？

なあに？

おかあさんて いいにおい
せんたくしていた においでしょ
しゃぼんのあわの においでしょ

市原さん(いっちゃん)の「おかあさん」の歌、最高でしたね！
いっちゃんの美声に、隣で酔いしれておりました。
その後の太田東西といっちゃんの掛け合い、大爆笑いただきました。
あれ、事前練習はなく、簡単な打ち合わせだけで、全部アドリブなんですよ。

「な～あに？」

この心境になれない、ゆとりのないイライラお母さんが目立ちます。

「おかあ～さん？」

「なんねっ！」

「おかあ～さん？」

「うるさかね！ 宿題は終わったの？ さっさとせんね！ はよ寝らんね！！」

太田東西のお母さんたちは、「なあ～に？」派だと信じていますよ～～～。